

YOMI

TRPG シナリオ Web アンソロジー企画

『Figural Echo』寄稿作品

はじめに

この度は当シナリオをお手に取っていただき、誠にありがとうございます。

こちらはエモクロア TRPG を元にしたオリジナルシナリオとなります。「ダイスタス・コモンズ」のライセンス表示の詳細に関しましては「エモクロア TRPG」公式サイトをご確認ください。

クレジット表記：必要（下記参照）

改変利用 ：条件付（シナリオの根幹からの改変は不可）

公演利用 ：許可

営利利用 ：条件付（個人による二次創作同人誌に限り、販売を許可します）

クレジット……

シナリオ制作：七篠 K

シナリオ内の記号

◇ ：技能ロール

■ ：探索項目

略字一覧

DL：ディーラー

PL：プレイヤー

PC：共鳴者

RP：ロールプレイ

AF：アーティファクト

このシナリオ内では、コラムにディーラー向けの補足情報を掲載しています。マスタリングのヒントとして参照してください。

シナリオについて

プレイ人数：2～4人

プレイ時間：5～7時間（ボイスセッション）

舞台 ：現代日本

推奨技能 ：〈検索〉

探索者条件：新規作成またはシステムコンパートが必要

書物とは歴史の標本であり、

文字とはその瞬間に生きた者を留める針である。

黄泉よ。読めよ。八百万の宇宙の言祝ぎを。

受け継がれゆくきみへ。

シナリオ背景

異界の幼体「宙の種子」に魅入られたカルト教団「星熟会」は、「宙の種子」を完全な状態になるよう育てあげ、宇宙を統べる神「渾沌」を人為的に創造しようと試みる。共鳴者は「星熟会」の企みに巻き込まれ、一度は人造の神「渾沌」誕生直前の瞬間を迎えてしまう。しかし、「渾沌」は不完全なかたちで降臨し、自身を中心とする局所的な時空を巻き込んだまま自己破壊を引き起こした。結果、地球全体で疑似的な「過去への時間跳躍」が発生。共鳴者はこの時間跳躍の影響で記憶のほとんどを忘却した状態で、再び「星熟会」の企みを阻止する物語へ挑むこととなる。

このシナリオで遊ぶ際は、キャラクターを「新規作成する」または「他の TRPG システムで作成した既存のキャラクターをコンバート（転換）する」いずれかの方法で準備する必要がある。キャラクターのをどちらの方法で準備するかによって、シナリオ背景の細部が変化する。

新規作成したキャラクターによる物語を〈原典〉、他システムからのコンバートキャラクターによる物語を〈異典〉と区別して詳細情報を記載し、シナリオ本文のテキストデータを分けている。

渾沌の御子 / Blessed by CHAOS

【共鳴感情】孤独（傷）、感情属性（情念）のすべて

【憑依時の変異例】この怪異は共鳴者に憑依しない。

【共鳴表】オリジナル共鳴表「多元宇宙原形質」を使用

カルト教団「星熟会」に保護されている、素性不明の子ども。周囲からは「渾沌の御子」あるいは単に「御子」と呼ばれる。

その正体は、セッションに参加する探索者の成り立ちによって二種類に区別される。

〈原典〉共鳴者が新規作成キャラクターである場合……

元は「喜多骨巳」の実子「央ひかる」であり、先天性の心臓疾患を抱え幼少期から入退院を繰り返していた。

長期入院で父親と接する時間が少なかったこともあり、父親の異変に気づいたのはすべてが手遅れになってからだった。それでも父親の願いが「自分の心臓病の治療」に根づいていることを知り、「宙の種子」からの憑依を受け入れて延命。結果「渾沌の御子」として新生する。

〈異典〉共鳴者が他システムからのコンバートキャラクターである場合……

本来は別次元（共鳴者のコンバート元となる TRPG システムの世界）における異界の存在であり、能力の暴走によって別次元から飛来してきた。このとき、コンバート元のキャラクターを巻き込み、一緒に次元移動をしてしまう。

次元移動の影響で元の能力をほぼ全て喪失するものの、わずかに残った力で自らを「宙の種子」へと圧縮し、「喜多骨巳」の実子「央ひかる」に憑依。「渾沌の御子」として新生する。

そら

宙の種子 / Origin of CHAOS

無尽蔵の生命力を宿す異界の神の幼体。その起源は天地開闢の物語における宇宙の原形質「渾沌」であると推測されている。

周囲の持つ感情、特に情念や孤独感を増幅させる性質を持つ。増幅された感情の重みに潰された犠牲者はこの存在に魅入られ、やがて【逸脱】してこの存在を神と崇める奴隷となり、より多くの犠牲者を集めるようになる。

「宙の種子」は単独で成長はせず、知性を持つ生命体に寄生することでその威力を増していく。宿主の持つ言葉を媒介として、周囲の感情を増幅させる。

そら

宙の枝 / Debris of CHAOS

「一周目」の混沌の御子が自己破壊を引き起こして砕け散った後、再構築の際に取りこぼされた残滓。「二周目」の時空に突如現れた存在であるため、ほとんどの者がその正体を知らない。

微弱ながら「宙の種子」と似たような性質を持つ。共鳴者がこの物質と「共鳴」をすることによって、共鳴者は「一周目」の混沌の御子の痕跡を察知し、探索に役立てることができる。

オリジナル共鳴表「多元宇宙原形質」

詳細は [オリジナル共鳴表] を参照。

喜多 骨巳 / KITA Kotsumi

カルト教団「星熟会」^{せいじゅくかい}の代表者であり、「央ひかる」の実父。「喜多」は離婚により苗字が旧姓に戻ったものである。

「宙の種子」から不幸にも幻視を受け取り、魅入られた犠牲者。「宙の種子」を芽吹かせ、神と成すための計画「渾沌の降臨」計画を企て、カルト教団「星熟会」を立ち上げた。そのうちの一部の経歴は、セッションに参加する共鳴者の成り立ちによって二種類に区別される。

〈原典〉共鳴者が新規作成キャラクターである場合……

息子の抱える心臓疾患が悪化し余命僅かであることを告げられ、絶望の淵に立たされていた頃に「宙の種子」を発見する。もともと極限状態であった感情はすぐに飽和し【逸脱】した。

しかし、喜多はただの犠牲者のひとりで終わることはなかった。「宙の種子」が宿す無尽蔵の生命力に気づいた喜多は、増幅された「息子の延命を願う気持ち」を満たすために「宙の種子」を息子へ投与し、融合させたのだ。

【異典】共鳴者が他システムからのコンバートキャラクターである場合……

ある日、息子のもとへ「宙の種子」が訪れ、息子へ憑依して融合する瞬間を目の当たりにしてしまう。息子を突然喪った絶望は一瞬にして「宙の種子」の影響で飽和し【逸脱】した。

しかし、喜多は息子が完全に喪われた訳ではないことを知る。「宙の種子」が息子と融合することで成立している存在であることに気づいた喜多は、息子の面影を求めて「宙の種子」へ奉仕するようになる。

星熟会 / Seijukukai

喜多骨巳が代表者を務めるカルト教団。

主に「宙の種子」に魅入られた犠牲者たちによって構成されている。

「渾沌の降臨」計画

「渾沌の御子」を完全な状態になるよう育てあげ、宇宙を統べる神「渾沌」を人為的に創造する計画。この世界に存在するすべての感情を「宙の種子」へ捧げて虚無へと還し、「渾沌」による新しい宇宙の創造を目指す。

神宿 実波 / KAMISYUKU Minami

【共鳴感情】向上（理想）、好奇心（欲望）

【憑依時の変異例】この怪異は共鳴者に憑依しない。

【共鳴表】オリジナル共鳴表「フィロソフィア」を使用

私設図書館「さががけ文庫」の管理人。女性。

全智の記憶「アカシックレコード」の端末の一体であり、知的好奇心が人格を得た存在。人類によって織りなされる智慧の標本たる「文字」に魅せられ、自ら地球で資料を収集するようになった。

もともとは単独で「星熟会」を不審に思い調査していたが、共鳴者と出会ってからは協力関係を築き、一緒に「星熟会」の目的を探っていた。

その後、「渾沌の降臨」計画成就の直前で共鳴者とともに過去の次元へと跳躍。時間跳躍の負荷によって共鳴者同様記憶のほとんどを喪失した状態で、物語に再び関わっていくこととなる。

一周目の「神宿実波」が共鳴者と出会った経緯は、セッションに参加する共鳴者の成り立ちによって二種類に区別される。

【原典】共鳴者が新規作成キャラクターである場合……

調査の過程で共鳴者が「宙の種子」に魅入られた犠牲者の特徴わずかに有していることに気づき、接触を試みた。その後「宙の種子」によって歪に増幅された感情を元へ戻す手段と一緒に探す提案をして協力関係を結んだ。

〈異典〉共鳴者が他システムからのコンバートキャラクターである場合……

調査の過程で異界の存在が飛来してくる現場を偶然目撃しており、その場にいた共鳴者と後日接触を試みた。共鳴者が星熟会に保護された異界の存在（渾沌の御子）と関係性があると推察し、共鳴者の出自と一緒に調べる提案をして協力関係を結んだ。

さがけ文庫 / Library of Sakigake

某市にて運営されている私設図書館。オカルト、歴史に関連する書籍が多く集められている。その正体は全智の記憶「アカシックレコード」の分室的存在であり、神宿実波によって収集された貴重な資料や超常的なテクノロジーが地下の閉架書庫に収められている。

オリジナル共鳴表「フィロソフィア」

詳細は [オリジナル共鳴表] を参照。

共鳴者 / PlayCharacer

共鳴者がどのようにして本シナリオの物語に関わるようになったのかは、キャラクターシートの作成方法によって異なる。

〈原典〉共鳴者が新規作成キャラクターである場合……

不幸にも「宙の種子」の影響を受け、少しずつ魅入られていく。

その後「神宿実波」からの接触を受け、協力して「星熟会」の最終的な目的を暴いて阻止しようとしたが、「宙の種子」の影響下から抜け出せず【逸脱】してしまい、「星熟会」の手に落ちてしまう。そのまま「渾沌の降臨」計画の生贄となるべく拘束されていたが、儀式が成就する直前に「渾沌の御子」と「神宿実波」の助力によって時間跳躍を行なった。

〈異典〉共鳴者が他システムからのコンバートキャラクターである場合……

元々存在していた他システムの世界で「渾沌の御子」の次元移動に巻き込まれ、エモクロア TRPG システムの世界へと飛来した。次元移動の際にコンバート元のキャラクターは生い立ちや能力の一部が変異し、エモクロア TRPG 世界の「共鳴者」として新生する。

その後「神宿実波」からの接触を受け、協力して「星熟会」の最終的な目的を暴いて阻止しようとしたが、「渾沌の御子」と同じ次元を由来とする共鳴者は「宙の種子」の影響を強く受け、「星熟会」の手に落ちてしまう。そのまま「渾沌の降臨」計画の生贄とするべく拘束されたが、儀式が成就する直前に「渾沌の御子」と「神宿実波」の助力によって時間跳躍を行なった。

（コンバート元のキャラクターがなぜ次元移動に巻き込まれたのかは、好きなように決めてよい。この特殊な存在に対処しようとしていたのかもしれないし、偶然居合わせただけかもしれない）

オリジナル共鳴表

共鳴判定の結果が極限成功以上の場合、下記ハウリングのいずれかが発生する。
ハウリング内容はダイスロールで決定、または付属のカードデッキを使用すること。

「多元宇宙原形質」

NPC「渾沌の御子」との極限共鳴発生時に用いる共鳴表。
〈ID6〉または付属カードデッキ「多元宇宙原形質」を使用する。

【1】渾沌 / まろかれ

—いにしへにあめつちいまだわかれず、めをわかれざりしとき、

ふいに、次に行なうべきことに対して思考がクリアになる。それは神の啓示を受けるに等しかった。

〈∞共鳴〉レベルがさらに1上昇。次に行なう判定の[成功数]+1。

『日本書紀』—

はじめ、天と地、陰と陽は分かれておらず、混沌とした鶏の卵のような状態だった。
そこから清く昇ったものは天となり、よどみ滞ったものは地となり、
萌え出る葦の芽のように、神が天地の中に生まれた。

【2】渾沌 / こんとん

—天地混沌如雞子、盤古生其中。

思考がかき乱され、考えるべき内容が幾度も行方をくらまし、霧の中にかすんでいく。
ID6 ラウンドの間、【知力】を使う技能の[成功数]-1。

〈*自我〉あるいは〈心理〉の成功で回復する。

『三五歴記』—

渾沌のなかから巨人の盤古が出現して、日に九度も変身を繰り返しながら成長し、
それに伴って天地の間が隔離した。
また盤古が死ぬと、その死体から日月星辰や風雨、山川草木や金石などの森羅万象が発生した。

【3】Tadekam / タデーカン

— nāsad āsin no sad āsit tadānim.

いくつもの感情が共鳴者に雪崩れ込み、不自然に増幅と共鳴を繰り返す。

「共鳴感情：怒り、嫌悪、恐怖（情念）」のいずれかを追加で獲得する。

（シナリオ中継続）

『リグ=ヴェーダ』—

その時、無もなく、有もなかった。
宇宙開闢では原初の水に坐す「かの唯一者」は、
ヴィシュヌ、バガヴァットと習合しナーラーヤナとなり、さまざまな神々と習合していく。

【4】 abzu / アプスー

— ZU.AB-ma reš-tu-ú za-ru-šu-un.

いくつもの感情が共鳴者に雪崩れ込み、不自然に増幅と共鳴を繰り返す。

「共鳴感情：喜び, 不安, 嫉妬 (情念)」のいずれかを追加で獲得する。

(シナリオ中継続)

『エヌマ・エリシュ』—

はじめにアプスーとティアマトだけがあり、それらはお互いの水を混ぜた。
それによって、ラフムとラハムが産まれ、それらはアンシャルとキシシャルを産み、
またそれらはアヌを、アヌはヌディンムを産んだ。

【5】 χάος / カオス

— ἡ τοι μὲν πρό τινος χάος γένετ'.

いくつもの感情が共鳴者に雪崩れ込み、不自然に増幅と共鳴を繰り返す。

「共鳴感情：哀しみ, 幸福, 恨み (情念)」のいずれかを追加で獲得する。

(シナリオ中継続)

『神統記』—

はじめに原初の神として混沌の淵カオスが生まれ、次に大地ガイア、地底の暗黒界タルタロス、
愛エロスが生まれ、その後カオスから闇エレボスと夜ニュクスが生まれた。それから女神のニュクスが
エロスの手引きによりエレボスと最初の夫婦になり、天上の浄光アイテルと昼ヘメラを産んだ。

【6】 Katolona' / カタロナ

— K'a katz'ininoq, K'a kachamamoq.

舌がもつれ、言葉が共鳴者の内側でいびつに反響し、輪郭を喪っていく。

ID6 ラウンドの間、言語を使う技能の [成功数] -1。

〈*自我〉あるいは〈心理〉の成功で回復する。

『ポボル・ヴフ』—

世界の最初は、日や年が存在する前であり、深い闇に覆われ、すべてが混沌としていた。
そこには世界を創造する神々のみが存在し、創造主、形成主、支配者、
羽毛のある蛇、天の神、地の神、冥界の神々などがいた。

「フィロソフィア」

NPC「神宿実波」との極限共鳴発生時に用いる共鳴表。
〈ID4〉または付属カードデッキ「フィロソフィア」を使用する。

【1】レファレンス

智への探求心が研ぎ澄まされ、情報への審美眼が磨かれる。
〈検索〉レベルが1上昇する。
(シナリオ中継続。この効果は重複しない)

【2】レフェラル

知的好奇心が膨らみ、自身を構成する重要な要素になっていく。
「共鳴感情：好奇心（欲望）」を追加で獲得する。
(シナリオ中継続)

【3】ファセット

思考が冴え冴えとし、手に取る世界が鮮やかに感じられる。
判定値に【知力】を使う技能の[成功数]+1(1回のみ)

【4】リポジトリ

極端な理知は、他者からの感情の揺らぎを撥ね退ける要塞となり得る。
この《怪異》以外からの《怪異》による【共鳴判定】の[成功数]-1(1回のみ)

プレイヤー向け事前情報

キャラクターの準備

このシナリオで遊ぶ際は、キャラクターを「新規作成する」または「他の TRPG システムで作成した既存のキャラクターをコンバート（転換）する」いずれかの方法で準備する必要がある。プレイヤーは事前に全員で相談し、キャラクターの準備方法をいずれか一方で統一すること。

新規作成する場合……

必ず、全員新しくキャラクターを創造すること。

（OK）プレイヤー全員がキャラクターを新規作成して準備する

（NG）プレイヤー A はキャラクターを新規作成し、プレイヤー B は「TRPG システム A」の既存キャラクターをコンバートする

コンバートする場合……

必ず、全員同一の TRPG システムからコンバートをする。

コンバートしたキャラクターは『エモクロア TRPG』の世界に紛れ込んだ別の存在（パラレルワールドに派生した存在）として扱うこと。

（OK）プレイヤー全員が「TRPG システム A」の既存キャラクターをコンバートして準備する

（NG）プレイヤー A は「TRPG システム A」から、プレイヤー B は「TRPG システム B」から、それぞれ既存キャラクターをコンバートする

版の選択

キャラクターの準備方法をどちらにするかによって、シナリオ背景の一部が変化する（大まかなストーリー展開やクリア難易度は変化しない）。

新規作成する場合……

「YOMI 〈原典〉」をプレイすること。

コンバートキャラクターで遊ぶ場合……

「YOMI 〈異典〉」をプレイすること。

シナリオ舞台

シナリオの舞台は現代日本、大都市またはその近郊市街を想定している。

シナリオ内では日本語の文章を読み解く場面が多く登場するため、共鳴者は日本語の基本的な読み書きと会話が可能である人物が望ましい。

共鳴者間の関係性は不問。ある程度生活圏が一致していると、より不都合なく探索が行なえるだろう。

注意書き・クレジット

本シナリオの無断転載および複製、二次配布、インターネット上へのアップロードを禁止します。

シナリオを元にした派生物(リプレイ、小説、イラスト等)はシナリオのネタバレに配慮し、皆様の快いTRPGプレイングにご協力をお願い致します。

本シナリオを使用したことで発生した問題について、作者は一切の責任を負いません。ご了承ください。

本シナリオの内容はフィクションであり、実在する人物、団体、事件等は一切関係ありません。

[制作]

シナリオ / NPC イラスト……七篠 K

トレーラーイラスト……野良猫ヶ原 (<https://x.com/noraneekogahara>)

[引用文献]

- ・『新訳漢文大系第7巻 老子・莊子(上)』(阿部吉雄, 山本敏夫, 市川安司, 遠藤哲夫著. 明治書院. 1994年. 291p)
- ・『岩波古語辞典』(大野晋, 佐竹昭広, 前田金五郎編. 岩波書店. 1982年. 502p)

[参考文献]

- ・『【図説】本の歴史』(樺山紘一編. 河出書房新社. 2011年)
- ・『NHK「100分de名著」ブックス 莊子』(玄侑宗久著. NHK出版. 2016年)
- ・『言霊とは何か』(佐佐木隆著. 中央公論新社. 2013年)
- ・『心はすべて数学である』(津田一郎著. 文藝春秋. 2015年)
- ・『読破できない難解な本がわかる本』(富増章成著. ダイヤモンド社. 2019年)
- ・『祝詞概説 新訂版』(西牟田崇生編著. 国書刊行会. 1995年)
- ・『言語の力』(ビオリカ・マリアン著, 桜田直美訳, 今井むつみ整訳, 解説. KADOKAWA. 2023年)
- ・『莊子』(岬龍一郎著, 編訳. PHP 研究所. 2013年)

[謝辞]

本シナリオは、TRPGシナリオWebアンソロジー企画「Figural Echo」寄稿作品です。この場を借りて深く感謝申し上げます。

01. 再開

青い、青い、宇宙が、ひらく。
そして。

共鳴者は目を開く。

カフェの椅子に腰かけ、テーブルにはそれぞれが注文したのであろう飲み物や軽食が置かれている。少し膨らんだ半月が黒い空に浮かぶ、夜遅い時間帯。耳ざわりの良い音楽が遠くに聞こえる。

しかし、自分はずいぶん、この場所にいるのだろう。

数時間前までの記憶が曖昧で、精神的な疲れも感じる。同席している人も同じ状況らしい。この訳が分からない状況で、共鳴者はどんな会話をするだろうか。

行動例 - 共鳴者の状況を詳しく確認する

怪我などはなく、服装や荷物は普段通りのものを身に着けている。

行動例 - 現在いる場所について確認する

探索者それぞれの生活圏内にあるカフェのテーブル席だ。

状況確認を終える

共鳴者のもとへ近づいてくる人影がある。

夜の底からぬくと立ち上がったような、暗く長い髪とローブ。ひび割れに似た筋の走る鉛色の肌に、真昼の星をそのまま埋め込んだような眩しい目が右側にまたたいている。10代前半の子どものような背丈のその人物は、共鳴者をまっすぐに見つめて口を開いた。

「やっと、戻ってきた。おかえり」

その子どもの言葉を聞いた瞬間、共鳴者は鼓膜の奥がぐらぐらと煮えるような感覚を覚える。

【共鳴判定】強度 6 / 上昇 I

∞共鳴感情：孤独（傷）、感情属性（情念）のすべて

NPC「渾沌の御子」との会話例

何者なのかを尋ねる

「……忘れたの？」

探索者に声をかけた理由を尋ねる

「ミナミのところ、行くんでしょ。さがけ文庫、だったっけ」

「ミナミはここにいないね。あなたたちとは、ここではまだ出会っていないんだねえ」

保護者などを探す

「ぼくはすぐ戻らないといけないから。ごめんね」

「あと、ぼくのこと見えるのは、ここではあなたたちだけ。だから気にしないで」

「これ、どうぞ。あずかっていたの、ぼくのかわりにミナミへ返してあげて」

子どもはテーブルの上に一本のペンを置いた。

銀色の六角形をしたそれはタッチペンに似ているが、触てみると金属ともゴムともつかない未知の材質をしており、謎めいた雰囲気をもっている。

プレイヤー向け情報

共鳴者は、アイテム「銀のペン」を入手する。

「それじゃあ、さがけ文庫がおわったら、ここで、またね」

「あなたたちに、さがしているを持ってくるから」

ほとんど会話がままならないうちに、謎めいた子どもは共鳴者へ背を向ける。

そのまま、すう、と身をすべらせるようにしてカフェを出て行ってしまった。

行動例 - キーワード「さがけ文庫」を調べる

〈図書館〉

成功

「さがけ文庫」という名前の私設図書館がヒットする。

オカルトや歴史に関する本を中心に収蔵している場所らしい。一般人には開放していない閉架書庫があり、管理人に認められた者にはこの世ならざる叡智を授かるという都市伝説めいた噂もある。

現在地から1時間程度の距離に位置しており、開館時間は午前10時から午後5時まで。向かうとしても、明日以降に改めなければいけないだろう。

失敗

「さがけ文庫」という名前の私設図書館がヒットする。

現在地から1時間程度の距離に位置しており、開館時間は午前10時から午後5時まで。向かうとしても、明日以降に改めなければいけないだろう。

「星熟会」の施した魔術によって、共鳴者以外の一般人には視認できない状態になっている。

言葉はたどたどしく、口数が少ない。知能もかなり低下している状態のため、共鳴者の疑問もほとんど解決しようとしない。

NPC「神宿実波」の所持品。外部記録媒体であり、「一周目」の神宿実波が「二周目」に向けて残したデータが含まれている。

解散して帰宅する

何事もなく帰宅し、一日を終える。

進行

[02. 違和] へ

02. 違和

その日の夜、共鳴者は夢を見る。

共鳴者は周囲にいる大勢の人間と同じように、祈るような姿勢でうなだれていた。
風が頬を撫でる。どうやら野外にいるようだ。
辺りはすすり泣きのような、歌のような、意味不明で不気味な声に包まれていた。

顔を上げる。

そこには今日出会った、あの不思議な夜の色をした子どもがいた。
子どもは片方だけの目を爛爛とかがやかせて、ゆっくりと首を傾げる。真夜中の暗い天
空を見上げて、腕を伸ばし、それから。
ぱちり、まばたきをした。

瞬間、ガラスの花火が爆発したかのような眩い乱反射が世界を満たす！
あらゆる暗闇は引き裂かれ、すべての輪郭がずたずたになり、

青い、青い、宇宙が、ひらく。
そして、……………。

目が覚める。窓の外はまだ暗く、夜明け前なのだと分かった。
首筋にはじっとりと嫌な汗が張りつき、頭は病み上がりのように熱かった。

進行

[03. 契機] へ

03. 契機

翌日、共鳴者を取り巻く世界はいつもと変わらない朝を迎える。

共鳴者も身支度を整え、それぞれの一日を始めるだろう。

身支度の途中で、ニュースが耳に入る。

数ヶ月前から少しずつ目にする機会の増えてきた、連続失踪事件についてだ。

【ニュース - 連続失踪事件 被害拡大】

先週時点で寄せられた行方不明者相談の数が、1ヶ月にして8件にものぼったと警視庁が発表した。

前月の通報と合わせると、現時点で捜索中の行方不明者数は13人になるという。警察は「何らかの事件に巻き込まれている可能性が高い」と、一連の行方不明者相談を連続失踪事件として捜査中。しかし、犯行声明や身代金要求などが一切なく、失踪者に共通点も見られないことから、捜査は依然として難航しており……。

ニュースを耳にしたとき、チリ、と頭の奥に痛みが走った。

……報道内容に、なぜか違和感を抱く。

同時に「失踪者は、自ら御子の贅となったのだ」と、支離滅裂な言葉が思い浮かんだ。

そんな情報はどこにも報じられていないにも関わらず。

昨日の不可解な出来事や、今日訪れた記憶の違和感。

それらを説明できるだけの情報を、共鳴者はまだ持ち合わせていない。

現在唯一手元にある手がかりは、「さきがけ文庫」というキーワードだ。

「さきがけ文庫」へ向かう場合

[04. さきがけ文庫] へ

ここで「さきがけ文庫」について調べる場合、〈検索〉成功で [01. 再開] に記載されている内容と同様の情報を獲得できる。

「さきがけ文庫」へ向かわず日々を送る場合

日常の端々で、共鳴者は「目の前の現実」と「自分自身の記憶」に言語化できないズレを感じる。得体の知れない感覚に、共鳴者の内側で違和感が育ち、意識を圧迫する。

1日経過することにより以下の判定が発生する。

【共鳴判定】強度 10 / 上昇 1

∞共鳴感情：全属性

〈この判定で極限共鳴は発生しない〉

04. さきがけ文庫

私設図書館「さきがけ文庫」は、地図によると閑静な住宅街を抜けてしばらく山道を登った先にあるらしい。

勾配の急な石段を上り、青々と茂った木々のかおりを抜けると、急に視界が開ける。かと思えば、由緒ありげな日本家屋が探索者を出迎えた。板葺きの切妻屋根に、歴史を感じさせる木の柱。事前に調べていなければ、とても図書館だとは思えない外観だ。正門には「さきがけ文庫」と墨でしたためられた木札が掲げられている。

施設の中に入る

開放された扉をくぐると、涼やかな空気が足元から流れ込む。広い玄関には靴箱が設置され、季節の花が花瓶に活けられていた。靴箱の傍にはベルが設置されており、「ご利用の方はベルを鳴らしてお知らせください」と掲示されていた。

ベルを鳴らしてしばらく待てば、奥からひとりの女性が現れる。

「やあ、こんにち。私はこの『さきがけ文庫』の管理人、^{かみしゅくみなみ}神宿実波だ」
「『さきがけ文庫』のご利用は初めてかな？」

NPC「神宿実波」との会話例

探索者との面識の有無について尋ねる

「しかし、ふむ……。妙な感覚がするな。初対面だと断言できるはずなのに、君たちどこか既視感を覚える。君たちがどこで『さきがけ文庫』のことを知ったのか、教えてくれないかな」

「銀色のペン」を見せる、または手渡す

「……それを、どこで手に入れたんだい？」

「それは確かに、私のものだ。特殊な端末で、私以外の者には扱えないものだから、誰かの手に渡るなんてことはないはずなんだが……」

渾沌の御子について言及する

「私はその子を知らないが、なぜこのような不可解な現象が発生しているのかは、君たちが預かってくれた端末が教えてくれるはずだ。ここまで届けてくれて、感謝する」

一周目の記憶をほとんど失っているため共鳴者とは初対面の認識だが、わずかな既視感や「銀色のペン」の所在から、自分の身に起きている不可解な現象（時間跳躍の痕跡）と関連のある人物であると推測。共鳴者を閉架書庫へ案内する。

「よければ君たちと詳しく話をしたい。こちらへお越し願えるだろうか」

神宿実波と名乗った管理人に案内され、共鳴者は管理人室へと招かれた。

部屋の奥にある階段を下り、螺旋状に地下へと降りていく。最後に、厳重に施錠された一枚の防火扉のもとに到着した。

「この扉の先に、君たちが届けてくれた端末を使うための装置がある。本来であれば一般人を招くことはない場所なのだが、君たちと私には特殊な事情があるようだから、案内するよ」

神宿はそう言ってから、扉を開けた。

扉の先には、想像を上回る広さの空間があり、すべてが本棚で埋め尽くされていた。木のかおりと空調機の静かな駆動音が共鳴者を出迎える。本棚はどれもガラス戸がついており、火災や地震への対策が厳重になされていることがわかる。その一方で、本棚に収められている図書はどれも非常に古く、ゆうに数百年は生き延びているであろう書籍や巻物、あるいは綴じられていない羊皮紙の束や文字の彫られた石板など、古書や歴史を愛する者ならばすべての目的を投げ打って自らこの場に幽閉されかねないような景色が広がっていた。

そして共鳴者は、初めて訪れたはずのこの場所に強烈な既視感を抱く。
この場所を訪れたことがある、と、ニュースを見たときと同じ「存在しないはずの記憶」がよみがえったのだ。

「この場所に既視感を抱くのなら、君たちは間違いなく超常現象に巻き込まれている者たちだね」
「預かった端末で答え合わせができればいいのだが」

神宿は共鳴者から受け取った端末を手に、部屋の奥へ向かう。今までに見たことのない謎の機械類がいくつも置かれており、古代の歴史を感じさせる本棚とはまるで反対の雰囲気醸し出していた。
神宿はそれらのうちのひとつ……銀色のペンと同じ質感をした、辞典くらいのサイズをした箱型の装置の表面へとペンを走らせ、操作する動きを見せる。いくつかの手順を踏まえてしばらくすると、ノイズ混じりに女性の声が聞こえた。
聞こえてきたのは、……神宿の声だ。

『よかった、端末が無事に届いたんだね』
『諸君、ごさげんよう。無事にこの断片が過去へと渡ることができて何よりだ』

NPC「神宿実波（一周目）」との会話例

あなたは誰？

『私は、そちらにいる神宿実波の断片……精神を一部分割して記録媒体に収納した状態の者だ。人間には突拍子もない発言だろうが、とりあえず「自発的に受け答えのできるデータ」だと思ってくれ』

外部記録媒体に保存された、神宿実波の一部。「二周目」へ向けて自分自身の精神を分割して収納し、渾沌の御子へ端末ごと託すことで、時空断裂に伴う記憶喪失を免れようとした。しかし、作業時間が足りず強引な行動だったために、蓄えられた記憶は不完全な状態である。